

体育学部の授業でのテイク

- 講義授業では、主に PC テイク
- 基本的に、実技の授業では情報保障のサポートなし
- 今年初めての試みとして：
水泳の授業で情報保障を行う
ホワイトボードにテイク

聾学校陸上競技会でのボランティア

- 神奈川県聾学校体育連盟陸上競技大会（毎年6月に開催）
- 毎年、約5名の学生がボランティアとして参加
- 例えば、タイム測定をし、走者に伝える仕事

部活動支援学生ボランティア

- 神奈川県立平塚ろう学校で、バレーボール部の部活指導
- 週に1回、約2時間
- 1人の学生が、約10人を指導
- 2016年度 半年間

テイクコーディネーター 教員側のサポート

- 2016年度春学期は、11名の聴覚障がい学生に対し、74名のテイカーが約120コマの授業をサポート
- 各教員が、それぞれの授業形態や受講人数にあったサポート方法を提供

私たち、 こんな活動してます

テイカーの声

- 先生の話すスピードが速く、要約しながら分かりやすくテイクすることに苦労した
- 他学部の授業でのテイクは、分からない内容も多く、専門用語は漢字の変換に戸惑ったりして難しかった
- 毎回授業が終わる際に、学生さんから「ありがとう」と言われて嬉しかった
- 体育競技会で、手話でお互いを褒め合っで一喜一憂する姿を見て、もっと楽しんで陸上競技をしてもらうために支援したいと思った
- 活動自体は誰でもできること、だからこそ多くの人に参加してもらい、聴覚障がい者の陸上競技をもっと見てほしいと思った
- タイプにかかる時間が短くなり、仕事が捗った
- 1人でやるときは責任感をいつも以上に感じてしまい、あまりうまくできなかった
- 2人テイクの時、相手をしっかり見てコンビネーションを考えながらできるようになった
- 「その人のために頑張ろう」と考え方が変わり、貴重な体験になった
- 学期の後半では、「一緒に授業を受ける」という感覚になり、落ち着いた気持ちでテイクを行うことができ、ボランティア本来の意味を学べた気がした



発表者： 烏田彩那⁺・関戸美音⁺・金野早希⁺⁺（東海大学体育学部4年⁺、3年⁺⁺）
田頭未希（東海大学国際教育センター）

問い合わせ先： 東海大学 国際教育センター 田頭未希 t:miki@tokai-u.jp